

職名	氏名	主な授業科目
専任講師	千葉修平	・子どもと音楽表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ・子どもと表現 ・保育実習指導Ⅰ ・保育実習ⅠA・Ⅱ

略歴	弘前大学教育学部生涯教育課程芸術文化専攻 卒業 弘前大学大学院教育学研究科教科教育専攻音楽科教育専修 修了 広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程後期教育学専攻教師教育デザイン学プログラム（カリキュラム開発領域）在学（2024年～） 弘前大学教育学部附属特別支援学校 臨時教諭（2015年） 弘前市立相馬中学校 臨時講師（2016年） 青森明の星短期大学子ども福祉未来学科保育専攻 専任講師（2017年～現在に至る） 教育学修士
	【著書】 ・2020年『コンパス音楽表現』第6章1, 2, コラム 第7章2, 建帛社（共著：編著者：駒久美子, 味府美香 著者：疇地希美, 荒巻シャケ, 甲斐万里子, 木下和彦, 香曾我部琢, 千葉修平, 二宮紀子, 早川富美子, 藤尾かの子, 古松律子, 松本哲平, 若谷啓子） 【論文】 ・2023年「Music Education and Social Inclusion: Resolving the Dichotomy between Aesthetics and Ethics」The 14th Asia-Pacific Symposium for Music Education Research Conference Proceedings, pp. 284-292（共著：Tadahiko Imada, Kenta Tsukahara, Shuhei Chiba, Yohei Koeda）. ・2023年「サウンド・エデュケーションの実践による学生たちの音楽観の変容」青森明の星短期大学研究紀要第48号, pp. 37-44, CD-ROM. ・2021年「Exploring the Inclusion and Equity in Music Education」Proceedings of the 13th Asia-Pacific Symposium for Music Education Research, pp. 321-327（共著：Tadahiko Imada, Kenta Tsukahara, Shuhei Chiba, Yohei Koeda）. ・2019年「環境音から考える表現領域について」青森明の星短期大学研究紀要第44号, pp. 15-22, CD-ROM ・2018年「保育内容表現Ⅱにおけるアクティブ・ラーニングの実践と教育評価について」青森明の星短期大学研究紀要第43号, pp. 13-24（共著：泉谷千晶・木戸永二・高橋多恵子・千葉修平・笹森誠・小関潤子） ・2017年「Of A-Pseudo Homology between Sonorous Air and Musical Interpretation in Music Education」APSMER2017 Proceedings, pp. 161-167 ・2015年「Bringing Alexander Technique, as an Alternative Educational Policy, into Music Education in Japan」Hong Kong Institute of Education 2015電子版（共著：今田匡彦・千葉修平）査読あり ・2015年「音楽と言葉—疑似相同性の問題点について—」修士論文（弘前大学教育学研究科） ・2013年「An Application of the Alexander Technique to Music Education in Japan」National Institute of Education: CD-ROM（共著：今田匡彦・千葉修平）査読あり

研究業績	【学会発表】 ・2024年「ポスト・ポスト構造主義の音楽教育」日本音楽教育学会第55回大会（玉川大学）（共同企画：今田匡彦，塚原健太，千葉修平，高橋憲人） ・2024年「幼児のためのサウンド・エデュケーション」2024年度サウンド・エデュケーション・セミナー 第1回，日本サウンドスケープ協会（オンライン開催），招待有り。 ・2023年「子どもたちによるオンガクの創生を写し取る—インクルーシブな音楽実践の評価について—」日本音楽教育学会全国大会（弘前大学）（共同企画：今田匡彦，塚原健太，小枝洋平，千葉修平） ・2021年「サウンド・エデュケーションは学生の音楽観をどのように変容させるのか—短期大学保育者養成校での実践と半構造化インタビューを通して—」日本音楽幸育学会全国大会（京都大会オンライン） ・2019年「Out of Logos —哲学身体論によるUniversal Designの構築」日本音楽教育学会全国大会（東京芸術大学）（共同企画：今田匡彦，塚原健太，小枝洋平，千葉修平） ・2017年 常任理事企画プロジェクト研究「若手研究者が考える音楽教育学の今後（第2年次）—研究方法論の追求から学と学会の在り方を見通す—」日本音楽教育学会全国大会（愛知教育大学）（パネリスト：甲斐万里子・高橋潤子・千葉修平・塚原健太 企画・司会：今田匡彦 企画：坪能由紀子） ・2015年「音楽科教育における言語活動とは—ナティエのレヴィ=ストロース批判を中心に—」日本音楽教育学会全国大会（シーガイアコンベンションセンター） ・2015年「音楽と言葉—疑似相同性の問題点について—」日本音楽教育学会東北地区例会（弘前大学） ・2014年「音と身体—プラトン哲学における身体の捉え方—」日本音楽教育学会東北地区例会（秋田大学） ・2014年「A Philosophical View of Music Education: Using the Concept of New Musicology by Nicholas Cook」The 7th Hirosaki University International Symposium (Hirosaki University) ・2014年「音楽の〈肌理〉とはなにか —合奏，身体，視覚芸術をキーワードとして—」日本音楽教育学会全国大会（聖心女子大学）（共同発表：今田匡彦，熊谷敬太，高橋憲人，千葉修平） ・2014年「音楽教育と哲学—ニコラス・クックの音楽論を中心に—」日本音楽教育学会全国大会（聖心女子大学） ・2013年「An Application of the Alexander Technique to Music Education in Japan」Asia Pasific Society for Music Education (Nanyang Technological University) ・2013年「音楽における「動き」とは」日本音楽教育学会全国大会（弘前大学） 【報告書など】 ・2020年「Out of Logos —哲学身体論によるUniversal Designの構築」（分担執筆：今田匡彦，塚原健太，小枝洋平） ・2020年「図形楽譜と創作」音楽の授業づくりジャーナル第3号，pp. 36-46, Webジャーナル（共著：鈴木千明，今田匡彦，千葉修平） ・2018年「若手研究者が考える音楽教育学の今後（第2年次）—研究方法論の追求から学と学会の在り方を見通す—」音楽教育学第47号第2号，pp. 82-89（分担執筆：今田匡彦，千葉修平，高橋潤子，甲斐万里子，塚原健太 本人担当部分は2節「「相同性」研究に関する方法論の課題」pp. 82-84） ・2018年「例会報告：東北地区例会報告」音楽教育学第48巻第1号，pp. 40-41 ・2014年「音楽の〈肌理〉とはなにか—合奏，身体，視覚芸術をキーワードとして—」音楽教育学第44号第2号，pp. 55-59（分担執筆：今田匡彦，熊谷敬太，高橋憲人 本人担当部分は3節「解釈による〈肌理〉の消失」pp. 56-57） 【演奏】 ・2021年「モーストリー・コンサート オーパス13」 ・2019年「モーストリー・コンサート オーパス11」
専門分野 研究テーマ	・音楽教育学 ・サウンド・エデュケーション ・打楽器教育

学会及び教育・ 社会活動等	【所属学会】 ・日本音楽教育学会 ・日本サウンドスケープ協会 ・保育学会 ・初等カリキュラム学会 ・日本音楽即興学会 【教育・社会活動】 ・2023年 日本音楽教育学会 第54回大会（弘前大会）実行委員 ・2020年 日本音楽教育学会 第16回音楽教育ゼミナール 実行委員 ・2017年 第5回青森県私立幼稚園新採用教員研修会 講師
--------------------------	--